

臨床コミュニケーション I

授業科目名	臨床コミュニケーション I	単位数 2 単位
英語標記	Introduction to Human Care in Practice I	
授業コード	360105	
受講人数	50 人	
担当教員	池田 光穂、西村 ユミ	
対象	全研究科大学院生、3 年次以上の全学部生、社会人（10 名程度）	
開講時間等	第 1 学期＝火曜 5 限（4 月 13 日～）	
開講場所	吹田キャンパス：人間科学部 105、106 講義室	
キーワード	臨床コミュニケーション、ディスコミュニケーション、人間の相互理解、臨床知、実践知、現場力	
授業の目的	1. 臨床コミュニケーションという人間活動に関する基本的な考え方について理解する。 2. さまざまなタイプの臨床コミュニケーションがもつ可能性と限界について理解する。 3. 臨床コミュニケーションに関する「知」に基づいて、日常生活におけるさまざまなコミュニケーション不全（ディスコミュニケーション）を発見し、具体的な解決方法を見いだすことができる。	
講義内容	【この授業のねらい】 コミュニケーションメディアがどのように発達しようとも、人間のコミュニケーションは対人コミュニケーションが基本にあります。臨床コミュニケーション関連授業は、この人間の基本的なコミュニケーションの様式にまつわるさまざまな事柄について、教員の変化に富んだ事例の提示と受講生どうしの共同討議により運営しています。 良好な対人コミュニケーション能力をつけるためには、まず対人コミュニケーションについて基礎から入門することが得策です。臨床コミュニケーション I と II は、この授業グループの基礎的な入門編として位置づけられています。これら両者の間に難易度の差はなく授業の方向性が異なるだけで、どちらか 1 つだけの受講をしてもかまいません。 今学期の授業は 15 回を目標におこない、次のような内容の授業展開をおこないます。(1) コミュニケーション入門、(2) 身体への気づき、(3) 五感を働かせること、(4) 言語現象への介入、という 4 つの柱から考えます。ただし、それぞれの順番は論理的な展開を示したものではなく、それぞれのテーマは相互に関連しますので、順序が逆転したり、議論が重複関連しますので予めご了承ください。 01. コミュニケーション入門（その 1） 02. コミュニケーション入門（その 2） 03. コミュニケーション入門（その 3） 04. 身体への気づき（その 1） 05. 身体への気づき（その 2） 06. 身体への気づき（その 3） 07. 五感を働かせること（その 1） 08. 五感を働かせること（その 2） 09. 五感を働かせること（その 3） 10. 言語現象への介入（その 1） 11. 言語現象への介入（その 2） 12. 言語現象への介入（その 3） 13. 臨床コミュニケーション（まとめ 1） 14. 臨床コミュニケーション（まとめ 2） 15. 臨床コミュニケーション（まとめ 3）	
教科書	特に指定しませんが、必読文献はその受講者に配布します。	
参考書	毎回の授業の中で指摘するほかに、ウェブページ等で提示します。	
成績評価	平常点（60％）と筆記試験（40％）を基礎にして平常点（＝質問・発話・コメントを通した授業の質向上への貢献）を加味して総合的に判断します。 講義で学んだことを後半の実習に反映させるために特に出席点と授業に対する貢献度（質問やコメントを積極的におこなう）を重視します。	

臨床コミュニケーション

臨床コミュニケーションとは、人間が社会生活をおこなうかぎり続いてゆく、ある具体的な結果を引き出すためにおこなう対人的コミュニケーションのことを言います。ここで言う臨床とは、狭い専門領域としての臨床（clinic）ではなくその現場における実践状況（human care in practice）のことをさします。臨床コミュニケーション研究において、このような脱専門領域の意識を共有することは重要です。なぜなら、臨床コミュニケーションとは、専門家どうしの対話のみならず、専門家と普通の人（例えば患者など）、そして日常経験の中に生きる普通のひとどうしの対話などから成り立っているからです。

ディスコミュニケーション

コミュニケーションの不在や失敗を、私たちはディスコミュニケーションと呼びます。ディスコミュニケーションは良好ではないという点で、いちはやく「問題の発見」や「改善や治療」の必要性が叫ばれます。しかし、劣悪な関係性であれば、コミュニケーションを遮断することが最善の選択になることだってあるはずです。我々はコミュニケーションとディスコミュニケーションの様式を深く学び、それらを上手に操ることも必要なのです。良好なコミュニケーションを目指す人は、ディスコミュニケーションについての深い理解が不可欠です。

本講義では

このような「知」のあり方を自覚するために、様々な専門領域の大学院生どうしの討論をおこないます。各自が専門領域以外の者と円滑にコミュニケーションを図る能力、プレゼンテーション能力、および社会的判断力を身につけることを通して、ディスコミュニケーションを解消するための具体的なスキルの学習を目指しています。

具体的には

異文化間、医療現場、紛争の現場における臨床コミュニケーションの特徴と課題を理解するとともに、参加者が自分たちの生活の場面からディスコミュニケーション事例を持ち寄り、そのプレゼンテーションと解決のための討論を通して、各領域におけるコミュニケーションの可能性と限界を明らかにします。そして、この臨床コミュニケーションの将来の課題を皆さんとともに模索してゆきます。

さらに学びたい人は

第 1 学期に開講されている「ディスコミュニケーションの理論と実践」、第 2 学期に開講する「臨床コミュニケーション II」「現場力と実践知」があります。また夏期集中講義「医療対人関係論」では、この授業のより具体的で先進的なかたちで受講することができるでしょう。より少人数で、テーマを絞ったグループ討論で、学びを深めることができます。